

# 糸満の海に稚ウニ放流

## 沖水高、高嶺小が飼育



シラヒゲウニの稚ウニを放流した沖縄水産高校の生徒と高嶺小学校の児童ら（提供）

沖縄水産高校総合学科・海洋生物系列の3年生と、高嶺小学校6年生の児童らが2日、水産資源の回復などを目的に、糸満市名城沖でシラヒゲウニの稚ウニ約

3500匹を放流した。県内でのシラヒゲウニの漁獲量は、乱獲などによりピークだった1975年の2200トに比べ2013年に2トにまで激減した。

水産資源回復のため沖水高は20年以上、種苗生産と放流実習を実施している。6年前からは陸上完全養殖の実用化を目指して研究している。

今回放流した稚ウニは、昨年10月に両校の児童生徒らが実習の一環として人工授精し、2〜5センチの大きさまで飼育した。授精に用いた親ウニの10個体ほどから、4200個体の稚ウニの生産に成功した。

沖水高の藤原優作さん(17)は「資源が回復して漁ができるようになり、多くの人々がウニを食べられるようにしたい」と期待を込め、湧川翔太さん(同)は「餌取りが大変だった。大切に育てたので子どもを見ている感じが」とほかにんだ。

高嶺小の伊敷桃子さん(11)は「大きく育ててほしい」と笑顔で話した。